

平成28年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	上田新風会
事 業 名	ツーリズムEXPOジャパン2016セミナー
事 業 区 分	①研究研修 ②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

本年、平成28年はNHK大河ドラマ「真田丸」放送効果で市内も賑わっている。上田市議会議員有志で活動している観光産業振興議員連盟による全国議会・議員誘導のための行政視察パックも好評で、北海道から沖縄まで多くの議会から当市に宿泊を伴う視察に来ていただき、議会・議員として観光振興の一翼を担っているところである。

ただ、放送が終了した後の観光客の大幅な落ち込みは、これまでの大河ドラマの舞台となった地域を見ても明らかである。ポスト真田丸の上田市をどうしていくのか、観光産業の最先端をみることで考えたい。

2 実施概要

実施日時	主 催	ツーリズムEXPOジャパン2016 組織委員会
平成28年9月23日 10:00~17:00	会 場	東京都江東区有明3-11-1 東京国際展示場（東京ビックサイト）

報
告
内
容

1 セミナー「リーサス:地域経済分析システムの活用事例」

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局
経済産業省 地域経済産業調査室

① RESAS(地域経済分析システム)とは、国が地域経済に関わる様々なビッグデータ(企業間取引・人の流れ・人口動態等)を収集し、「見える化」するシステムを構築し、公表することで、自治体における効率的な計画の立案・実行・検証(PDCA)を支援するシステムである。

② RESASを使うと、「観光マップ」によりどこからどこに人が来ているかやインバウンド観光動向が把握可能になり、「地域経済循環マップ」では自治体の生産・分配・支出におけるお金の流入・流出が把握可能になったり、「農林水産業マップ」を活用すると農業部門の販売金額割合が把握可能になったり農業経営者の年齢・農地の利用状況などが把握できる。

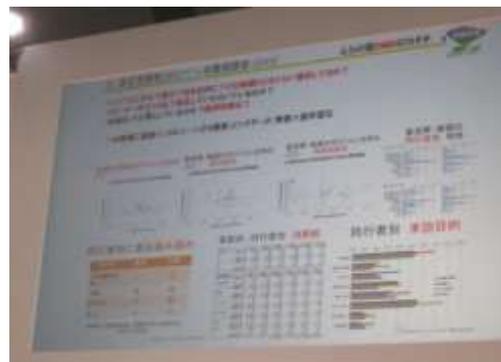


③ ビッグデータを基にした各種マップを自治体ごとに出すことが可能なので、人口減少・過疎化が進み、縮小する地域経済を活性化させていくには、上田市もビッグデータを活用して地域の現状・実態を正確に把握した上で、将来の姿を客観的に予測し、地域の実情・特性に応じた効率的な政策立案とその実行が必要であると感じた。

2 パネルディスカッション「近未来の旅の形」として多言語翻訳を中心とした先端技術を活用した新たな観光ビジネス

(株)日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部長	近藤修申 氏
(株)JTBコーポレートセールス霞が関第一事業部マネージャー	高知尾昌行 氏
凸版印刷(株)アイデアセンターコンテンツ企画部課長	西村 仁 氏
日本電信電話(株)研究企画部門プロデュース担当部長	土橋寿昇 氏
パナソニックソリューションテクノロジー(株)ソリューション部長	松田佳代 氏
(株)フィート代表取締役社長	小林照二 氏
国立研究開発法人情報通信研究機構研究開発推進センター長	木俵 豊 氏

- ① 観光予報プラットフォーム推進協議会が観光地域づくりに資するマーケティングツールとして「観光予報プラットフォーム」を提案しており、7,000万泊の宿泊実績・予約データから国内外の宿泊客の属性・動向の把握分析、6か月先の宿泊予測の把握が可能になる。また、47万件の観光地・病院・WiFi、ATM等情報が市区町村ごとに多言語(英語・韓国語・中文簡体字)で利用可能になる。
- ② 数目標でなく価格目標を設定すべきで、プロモーションにいくら掛けて、いくら戻って来たか=税金をいくら掛けていくら戻って来るか、デジタルでの見える化が必要である。
- ③ 自分の地域をGoogleで英語で検索してみると、世界にどのような情報がどの程度流れているか、或いは流れていないか理解することができる。「自分たちが売りたい」より先に、「客がどう思っているか」の研究をするべきである。
- ④ 観光施策は費用対効果の視点が最も重要で、これまでのようなアナログ感覚で「数撃てば当たる」方式では観光で勝ち抜くことは困難である。ビッグデータを活用・分析した客観的な数値を基にした施策を打つべきであると強く感じた。



* 写真等がある場合は添付のこと